

皆様方、平成25年の新年をお元気でつつがなくお迎えのことだと思います。昨年は大きな災害もなく無事に一年が過ぎました。無事ということことは何事も無かつたということで、悪いことも余り良いこともなかつたように思います。政治の世界は相変わらず人々は羨妬うし、リー・ダーラーの出現を望んでいるように思えますが、これも一歩間違つと取り返しのつかないことになる恐れもあるかもしれません。平々凡々、事無しがいいのかもしません。

年頭あいさつ

昨年度のノーベル賞に思う

理事長 岸本 忠二

皆様方、平成25年の新年をお元気でつがなくお迎えのことだと思います。昨年は大きな災害もなく無事に一年が過ぎました。無事といつことは何事も無かつたといつことで、悪いことも余り良いこともなかつたように思います。政治の世界は相変

山中教授の受賞は2006年のiPS細胞の確立からわずか6年という早さでの受賞でしたが、この仕事が生命現象の世界に与えるインパクトの大きさを現しているのであります。カエルの脱核した卵子に腸細胞の核を移入してカエルにまで分化させたというDr. Gordonの研究はありましたが、これは両生

いう発見にも匹敵するかもしれません。原子力発電が人類に多大な貢献をすると共に使い方を調べればどうなるかは今は誰でも知っています。iPSも如何に人の幸せにつながる方向へと応用していくかがこの分野にかかる次の代の研究者の今後に課せられた問題であるうと思ひます。

授のノーベル賞受賞ではなかつたでしようか。一昨年は当然と思われた審査員静男教授が受賞から外れました。一昨年自然免疫でノーベル賞を受賞したフランスの Hoffman 教授は自分の予想のリストの中に審査員教授が入っていたと言っています。

類であり、又卵子を用いていふことからも卵の中でしか分化した核を“初期化”出来ないと誰もが考えていました。分化した人の皮膚細胞を受精卵と同じような状態に戻すことが出来たという発見は物理学における核分裂によって巨大なエネルギーが発生する

## 画題 赤い屋根(Praha)



一昨年の夏、中世の雰囲気の漂うブラハを家内と訪れた時、広場の時計台より見た赤い屋根の建物が印象的でした。並んでいる赤い屋根が、光を浴びて色調を変え、それぞれの個性が引き出されるように見えました。

太陽は笑って光を分けてくれるのですが……！」

石川允(昭44)

いすれにしても誰も予想もし  
なかつたし、そういう実験を  
試みようとする人もいなかつ  
たことは確かです。“はや  
り”になつて、この研究を行ひ、  
いまひとつまを合わせて  
Nature に accept される論文  
を書くつと考へる人が大部分  
であるつし、又研究費や賞の  
選考等の審査でも Nature  
の出でないのです。

Science 等のインパクトファ  
クターの高い論文がたくさん  
あれば良しとする傾向、それ  
は審査する人が不勉強で分か  
てない、といふことを表して  
いる部分もあるでしよう。そ  
のために山中教授の iPS 細  
胞のよつな、人があつという  
ような研究はなかなか日本か  
年から批判めいたりに  
なりましたが、日本のあらゆ  
る分野で素晴らしいリーダー  
が輩出することが期待されて  
います。それがこれからもつ  
一度日本を“日出ずる国”と  
して世界から評価されるとい  
つながらるでしよう。

(2012・11・10記)

年 初 か ら 批 判 め い た こ と に  
な り ま し た が、 日 本 の あ ら ゆ  
る 分 野 で 素 晴 ら し い リ ー ダー  
が 豪 出 す る こ と が 期 待 さ れ  
て い ま す。 そ れ が こ れ か ら も う  
一 度 日 本 を “日 出 づ る 国” と  
し て 世 界 か ら 評 価 さ れ る こ と  
に つ な が る で シ ょ う。

(2012・11・10記)

## 第24回シンポジウム

# 地域医療の課題とその対策

平成24年度の医学振興銀杏会主催のシンポジウムは、11月8日(木)銀杏会館の阪急・三和ホールにて開催された。大阪大学医学部附属病院の各関連病院代表といった方が多数参加された。

定刻に開会。早石雅宥副理事長(昭42)の司会で岸本忠三理事長(昭39)が開会の辞を述べた。

今回は、現在最も関心の深い「超高齢社会の医療と介護」をテーマに、荻原俊男副理事長(昭43)、森ノ宮医療大学学長、阪大名醫教授)をコーディネーターとして、楽木宏実先生(昭59、大阪大学老年・腎臓内科学教授)、田村学先生(昭59、医療法人学縁会おかか住診クリニック理事長)、北川透先生(昭60、医療法人協和社会協立病院院長、大阪大学医療経営政策准教授)によるパネルディスカッションを行った。

樂木教授はまず、超高齢社会の下では医療と介護の効率的運用が不可欠であると指摘された。高齢者医療の専門医の養成は喫緊の課題の一つで

ある。「超高齢社会の医療と介護」をテーマに、荻原俊男副理事長(昭43)、森ノ宮医療大学学長、阪大名醫教授)をコーディネーターとして、楽木宏実先生(昭59、大阪大学老年・腎臓内科学教授)、田村学先生(昭59、医療法人学縁会おかか住診クリニック理事長)、北川透先生(昭60、医療法人協和社会協立病院院長、大阪大学医療経営政策准教授)によるパネルディスカッションを行った。

樂木教授はまず、超高齢社会の下では医療と介護の効率的運用が不可欠であると指摘された。高齢者医療の専門医の養成は喫緊の課題の一つで

あるが、研修医から高齢者医療を担当する総合診療医を育てるには社会の高齢化速度に追いつかない。むしろ実地医家に対する再教育が現実的であるとの意見を述べられた。更に先端医療の高齢者への適用などについては、本人・家族のみならず国民的議論を喚起する必要があると提議された。田村理事長からは、在宅ながら伊藤裕康先生(昭56・自治医科大学医、大阪府医療監)によるパネルディスカッションを行った。



状を報告した。また、この1年間に医学部に就任したうち2人の新教授、小川和彦先生(平3・千葉大医)、森井英一先生(平4)から挨拶があった。早石雅宥(昭42)は、パネルディスカッションの要旨は、本年度会費を納入済みの方に本号と同封しているのでご高覧下さい。

早石雅宥  
(昭42)

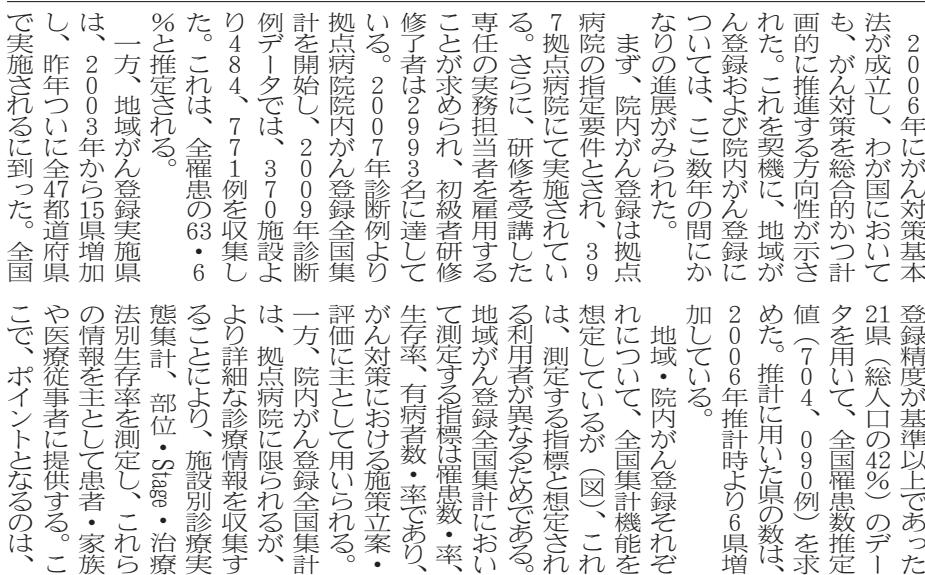
## 〈平成24年度 秋 叙勲と受賞〉

## 次期役員選挙 について

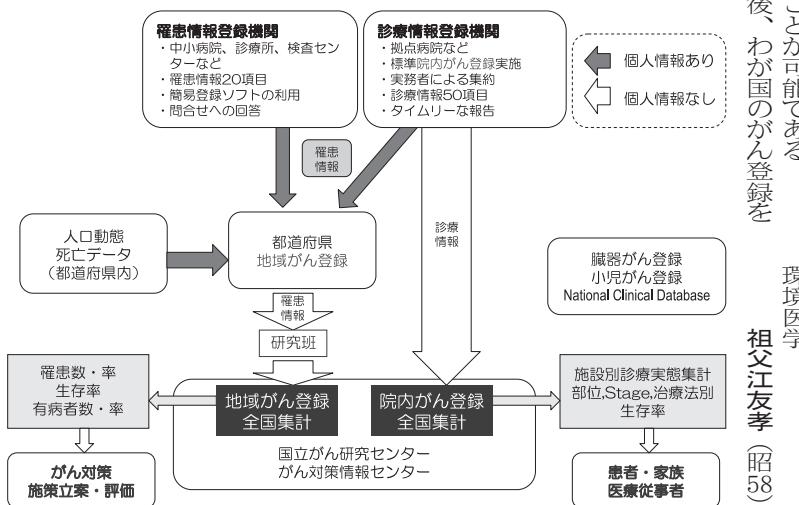
次期役員候補となつた会員の  
詳細については、同封別紙を  
ご覧下さい。

瑞宝中綬章	橋本 一成	(昭28)
瑞宝中綬章	田中 修二	(昭33)
瑞宝中綬章	小倉 剛	(昭35)
瑞宝小綬章	桂田 菊嗣	(昭35)
瑞宝小綬章	原 弘道	(昭40)

日本医師会医学賞	仲野 徹 (昭56)
大阪科学賞	古川 貴久 (昭63)
持田記念学術賞	熊ノ郷 淳 (平3)



## がん登録のデータの流れ



データの即時性である。地域がん登録は、二重登録を防ぐ名寄せを行うために集約作業に時間を要し、通常4～5年遅れで全国集計が公表される。一方、院内がん登録は、データ収集の周期を短くすれば、1ヶ月遅れでもデータを公表することが可能である。

(1)国の事業として位置づけること、(2)届出を医療機関の義務とすること、(3)既存資料（特に電子化された）が個人情報付きで利用できる権限を地域がん登録に与えること、が重要なポイントと考えられる。

トピック

## がん登録の最近の進歩

さうに一歩進めるためには、



紹  
診  
療  
介  
科

神經内科・脳卒中科

神経内科・脳卒中科は、現在学内構成員は31名で、大阪府下と阪神間にある約10余りの関連病院に常勤医を派遣しています。当科の扱う疾患は多岐にわたり、緩徐進行性の変性疾患の慢性疾患から、脳卒中・脳炎に代表される急性疾患まで、臟器としては脳から、脊髄、末梢神経、筋までの疾患を含みます。一昨年9月に望月秀樹が新教授として就任いたしました。

臨床面では、脳卒中に關して、脳神経外科、救命救急センター、老年高血圧内科、放射線科などの先生方と共に卒中センターの主要な構成員として、茨木市医師会の先生方や急救隊の要請に日中直接対応するなど、大学病院でも急性期医療に積極的に取り組んでおります。また、脳卒中協会の大阪支部を通じた啓発活動も積極的に行っております。変性疾患の診断、パーキンソン

ン病の薬物調整、稀少疾患の診断、ボツリヌス毒素による治療にも重きを置いておりま  
す。筋・末梢神経の生検診断  
について、解説をお引き受け  
しております。院内の各診療  
科なども積極的に症例検討  
を行っております。特に、パー  
キンソン病などについては脳  
外科と脳深部電気刺激療法、  
磁気刺激療法などについて力  
ンフルアンスを行い、症例を  
蓄積しております。遺伝子診  
療部や最近発足したてんかん  
センターでの診療にも参画し  
ています。

研究面では、変性疾患、神  
経免疫、筋疾患、神経病理、  
脳血管障害のグループに分か  
れておりますが、グループの  
枠を超えた研究も推進してお  
ります。変性疾患グループで  
はパーキンソン病を中心とし  
た分子病態研究から、医工連  
携に基づく神経徵候の解析、  
リハビリテーションまで幅広  
い研究を行っています。神経  
免疫グループは大阪大学の免  
疫研究の強みを生かし、学内  
の複数の教室と共同研究を推  
進しております。筋疾患グル  
ープは筋強直性ジストロフィー  
や筋チャネル病に関して分子  
遺伝・生物学的解析から電気  
生理学的解析まで手掛けてい  
ます。神経病理グループは患  
者検体の病理のみならず、実  
験病理研究でも成果を上げて  
います。脳血管障害での基礎  
研究では虚血耐性現象を世界  
に先駆けて証明した業績を有  
しております。虚血に伴う分子機  
序はもちろんのこと、脳血管  
障害の臨床研究でも着実に業  
績をあげています。

神経内科の役割は大きく、  
その専門性もさうに高まつた  
ことで、多くの関連病院から  
神経内科医の勤務要請があり  
ます。そのため、我々も地域



医療に更に貢献すべく、幅広い経験を積んだ優秀な神経内科医の育成に尽力しております。具体的には、大学および関連病院が中心になって、研

修医・レジデントの研修体制整備委員会を発足させております。どうか学友会の先生方の理解・支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申します。

次は、脳神経外科の吉峰俊樹教授にお願いいたしました。  
上げます。